



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101
Facsimile: (045) 222-1103
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

FAO(国際連合食糧農業機関) 日本事務所
2011年1月27日

LOJAPR11/5-No. 186

プレスリリース

韓国での口蹄疫が地域的リスクとなる兆し —多国間で調整された対応が必要—

2011年1月27日ローマ/バンコク:FAO(国連食糧農業機関)は、これまでに類のない規模の韓国での口蹄疫発生を受け、アジア地域の獣医・国境検疫当局へ、口蹄疫感染の兆候を示す動物への警戒を呼び掛けた。

2010年11月下旬以降、韓国当局は、隔離措置を講ずるとともに、豚 900万頭及び牛 300万頭を対象としたワクチン接種キャンペーンを開始したほか、220万頭の家畜を処分してきた。この被害額は、総額約16億ドルに上ると見られている。

「現在の東アジアでの口蹄疫の動き、並びに韓国での発生規模は、少なくともこの半世紀経験したことのないものである。」とFAOのユアン・ルブロス主任獣医長は述べた。「そのため、現時点での準備・監視が大変重要である。」

「アジアの関係当局は病気のどのような事例であれ、それを発見し直ぐに的確な方法で対処出来る様にして置かなければならない。FAOはこの疫病の拡大を防ぐ為、先を見越したワクチン接種キャンペーンを推進している。」と彼は述べた。

「口蹄疫は、地域の問題として取組まれるべきである。だからこそ、FAOはそのアジア・太平洋地域事務所を通じて、現在の状況及び可能性のある調整対応策について討議する為、東アジアの担当獣医事務官を集めての会議を開催することを計画中である。」とスプハシュ・モーザリアFAO越境性動物疾病緊急対策センター・アジア地域部長は付け加えた。

ルブロス氏は、また、各国は、口蹄疫発生に対処するに際しては、動物の福祉と環境への影響を考慮する一般に容認された対応方法に従うべきであると述べた。

東アジアに広まるウィルス

北朝鮮で口蹄疫が発生したというマスコミ報道は、現地当局によってまだ確認はなされていない。

ここ数年、中国からロシア東部地域、更にはモンゴルにかけて、口蹄疫ウィルスの新しい菌株が広まっている。最近では全頭数2－5. 5百万等といわれるモンゴルのガゼルの多くが口蹄疫に感染した。FAOはこの病気に対応する当局を支援する為、緊急対策チームをモンゴルに派遣した。ルブロス氏は、特に、人々の大移動があり、その多くが肉製品を持っていたり動物の輸送を行う旧正月の時期が近付いているアジアの全般的状況を懸念していると述べている。

封じ込めが難しく、農家や獣医にとって悪夢

口蹄疫は伝染性が高く、牛・水牛・羊・山羊・豚・その他の偶蹄類動物に感染する。病気は、鼻・口・蹄に水膨れを起こし、若かったり弱い動物では死に至ることもある。口蹄疫ウィルスには幾つかの型がある。韓国のケースはO型のウィルスによる。

この病気は人体へ直接害はもたらさないが、感染した動物が土を耕したり収穫物を運搬したりするには弱り過ぎていたり、農民がウィルスに感染している為にその動物からのミルクを売ることができない。

感染動物にみられる口蹄疫の早期兆候の一つは、異常に多い量の唾液や鼻汁である。口蹄疫のウィルスは感染した動物の体外に出されても、特に寒く湿度の高い環境であれば、数時間生き長らえる。これは、感染した唾液やその他の体液との接したいかなるものによっても、ウィルスが運ばれてしまうことを意味する。

農場の洗浄や動物処理の費用は、農民に負担となり、病気発生による貿易制限は、地元及び国の経済に大きな影響を及ぼす。

2001年のイギリスでの口蹄疫発症の損害費用総額は、130億ユーロに上ると推定されている。

ワクチン接種がカギ

口蹄疫の発生が増加している中で、対策として大規模な動物処理がやはり望ましい方法なのか、それともワクチン接種がより重要な役割を果たすべきなのか、問われるところである。

「特に口蹄疫発生のピークには、動物処理の時間を稼ぐため、病気の伝染を防ぐとともに漸進的な病気の除去を目的とする緊急ワクチン接種がますます実施されるようになっている。また、ワクチン接種は、動物を守り、生かし、生産性を保つことが出来る。」とルブロス氏は述べる。「今日では、病気に感染した動物とワクチン接種をした動物とを見分けることが出来るテストがあるので、口蹄疫の発生から回復した後に、各国が口蹄疫清浄証明を再取得することがより簡単になった。」と彼は述べた。

英文URL: <http://www.fao.org/news/story/en/item/50098/icode/>